

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ごういず		
○保護者評価実施期間	2025年10月10日 ～ 2025年11月11日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 (回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2025年10月28日 ～ 2025年10月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年10月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	＜空手を用いた武道療育をしている＞ 他のデイにはない、空手に特化した療育。 空手を用いた武道療育を行うことにより、あいさつや礼儀、他 児童を尊重すること等を学ぶことができる。	空手を通して全身運動を行うことで、集中力や落ち着きを身に 着けることができる。 児童が楽しく参加できるように毎日のプログラムを工夫してい る。 ストレッチからはじまり、基本の動きを毎日丁寧に言い、体力 作りの筋トレも行っている。 他のデイではできない本格的なミット打ちや専門武器を用いた 療育を行っている。	個々のペースや能力に応じたカリキュラムを取り入れて、さ らに向上心を高められるようにする。 昇級の基準等を設けて、目標をもって取り組めるようにして いる。 集団で行っているため、苦手なところなど個別で行えると良 い。
2	＜空手以外にも楽しい活動がある＞ 空手以外にも活動をしている。 他にはなかなかない量の部屋で行う、おもちゃや知育玩具を用 いた遊び、個別支援にも力を入れている。 長期休みは日々様々なイベントを企画している。	児童同士の関わりが増えるよう、ボードゲーム等を通してより 良いコミュニケーションがとれるようにしている。 個々の伸ばしていきたいこと等、常に話し合い、知的・学習的 な側面も組み合わせて支援している。 外出、外食、自然に触れ合う、買い物体験などいろいろな経験 ができる。	壊れていたおもちゃを直すなど、物の大切さやできることを 増やすようにする。 個々に合わせた支援が定期的にできるように時間を設けてい く。 プログラムを行う中での反省点からより充実した内容になる ようミーティングを行い改善していている。
3	＜経験・実績を持った職員がいる＞ 代表を含め、児童指導員、保育士、介護福祉士等の資格、経 験、実績をもったスタッフが揃っている。	それぞれのスタッフの経験により個々に合わせて対応ができて いる。	個々の気持ち、想いを個別で聞ける時間（面談）を設け、生 かすことができるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	＜建物の老朽化・活動スペースが足りない時がある＞ 建物の老朽化から時に雨漏り、害虫が発生することがある。 空手スペースが10名の児童と職員が入るとスペース的に余裕 がなくなるため、もう少しスペースがあると良い。	修繕が必要になった際にその都度依頼したり、自分たちで直し たりしている。 空手で武器を使用する際に人にあたる可能性があるため、ス ペースが要される。	児童が怪我をしないように常に周囲の気になるところを チェックする。 空手の活動を前半後半で分ける、回し蹴りなどでは2回に分け る等の工夫をしている。
2	＜個別対応がしきれない時がある＞ 運動や武道が苦手な子も入所されることがあるため、慣れるま で時間がかかることがある。 児童の中で目立つ子、目立たない子がいる際に目立たない子に 支援が行き届かないことがある。	入所される前に空手の魅力、楽しさを伝える。興味を持って いただく。 静かな子、ちゃんと空手に取り組んでいる真面目な子にもしっ かり声掛けをする。	苦手なことも少しずつできるようになり、達成感が感じる感 じられるものを取り入れていく。 職員全員が目立つ子に意識が偏るのではなく、全体を見るよ うにする。
3	＜連携が十分でない＞ 地域の関係機関や学校との連携がまだ十分に図れていない。	学校、他デイサービスとの情報共有する機会が少ないので、支 援の一貫性を高めるため機会を設ける。	他機関との情報共有を目指す。 区の放課後デイの集まりで積極的に情報交換をできるように する。 また、地域イベントへの参加を通して地域に根差した支援を 強化したい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年 10月31日				
放課後等デイサービス ごういず						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		いくつもの部屋がある。 人数が多い空手の場合は立ち位置等気を付けている。 空手の部屋、遊び、クールダウンと児童が分けて使えている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	4		十分な職員配置がされている。 足りない日にはバイトで人を増やしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		昇級や今週のテーマ等、見てわかりやすいようになっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		毎日掃除をしており、夏や冬にはエアコンや扇風機、加湿器を利用している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		遊び、読書、勉強等、個々が必要とする空間をつくるための部屋数、スペースが用意されている。 気持ちを落ち着かせる場所、男女の着替えの部屋など設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		定期的に目標を決めて、振り返りを行っている。 日々のミーティングで出た改善点を取り入れている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		管理者から評価を聞き、改善に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		常にミーティングを行い、職員同士の意見を話し合っている。 言いやすい環境である。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3	1	社内研修をしている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		空手で行っているプログラム等、SNSで発信している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		職員ミーティングで意見をまとめながら計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		職員全員で検討をしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		計画後、見直しをしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		有料ツールを使って、児童に適した個別プログラムを行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2	1		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		空手やイベントのプログラムを職員全員で作成している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		日々変化をつけたプログラムを行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		基本活動が空手となっているため、集団活動が多めだが、個別活動もできる配慮をしている。 児童の状況に合わせた支援をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		その日の流れに応じて役割もあるが、状況に合わせて臨機応変に動いている。 支援開始前に職員ミーティングを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		振り返りを行い、その場にはない職員との共有のため、記録として日誌に記入している。 特にその日に気になった出来事を中心にミーティングを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		職員ミーティングでの内容は記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		成長や変化に伴い、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	3		フォーマットを用いて計画し、4つの活動を組み合わせている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4		空手という基本活動をベースにしながら、遊びやおやつの中には自分で選択することができる。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		普段接している職員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		何かあれば区の部会で連携をして支援をする。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		個々の学校担任、保護者との連絡をとれるようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	1		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2		移行する場合、情報を共有している	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2		地域の支援センターの方が見学に来る際に情報交換をしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		3		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2		区の部会に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		送迎時や連絡帳で伝えあっている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		2		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		利用開始前に丁寧に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4			

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		3		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	1		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4			